



「新型うつ」研究の最前線(2) — 研究と実践の対話のために —

「新型うつ」とは?

坂本 真士
(日本大学)

「新型うつ」とは?

- ▶2000年頃から注目を集めてきた新しいタイプの抑うつ
- ▶従来のメランコリー型の抑うつとは、対照的な側面をもつ
否定的なイメージで語られることも多い

表 従来型うつ病と「新型うつ」との比較

	従来型うつ病	「新型うつ」
年齢層	中高年層に多い	20代から30代に多い
性格特徴	几帳面でまじめな性格	自立せず無責任で役割から逃避する傾向
	規範に対して好意的で同一化	規範に対して「ストレス」であると抵抗する
	秩序を愛し、配慮的で几帳面	秩序への否定的感情と漠然とした万能感
	基本的に仕事熱心	もともと仕事熱心ではない
気分	継続して落ち込み	激しい浮き沈み
場所	関係なく、沈む	会社
症状特徴	週末や休日にも不調	週末や休日は元気
薬物療法	比較的良好に効く	効果が限定的。

参考: 亀田(2011)、斉藤(2011)、樽味(2005)、山本(2010)

「新型うつ」を巡る疑問(概念について)

Q: 「新型うつ」はうつ病? 適応障害? 双極II型? 発達障害? ...

A: 現時点では(私には)よくわかりません。「新型うつ」との概念的重複はあると思います。

「新型うつ」的な不適応行動に至る心理的プロセスを特定できれば、「新型うつ」が何か、わかると考えています。

「新型うつ」 → 本態を示す新たな名称

新しい抑うつの
記述と分類

+

心理的プロセス
の特定

心理的プロセスが特定できれば

- ✓ 本人が何に苦しんでいるのか理解できる
- ✓ 「学校へ行けない学生」と「会社へ行けない新型うつ」との関連性も見えてくる
- ✓ 治療や予防にも活かせる
 - 以上を目指して、科研費の補助をいただき研究を進めています
- 平成25年～27年
 - 基盤研究(C)『新型うつ』に関するパーソナリティと社会的認知の研究
- 平成28年～31年(予定)
 - 基盤研究(B)『新型うつ』の予防と治療に関する心理学および精神医学的研究

前回の公開シンポジウム

- 2018年3月17日(土) 13:00～16:00
- 前半: 研究成果報告
 - (1)「新型うつ」の若者はなぜ増えた?(山川)
 - (2)どんな人が「新型うつ」になりやすい?(村中)
 - 「新型うつ」は周りからどう思われている?
 - (3)大学生が抱く「しろうと理論」の検討(勝谷)
 - (4)管理職・非管理職社員が持つイメージと関わり方(亀山)
 - (5)日米比較調査の結果から(樫原)
 - (6)「新型うつ」に企業人はどう対応している?
 - グループインタビューからわかる現状と課題(佐久)
- 後半: 対話セッション



本シンポジウムについて

- 2部構成
- 前半(13:00～14:30): 研究報告と指定討論
 - 研究報告(各25分)
 - 山川樹: 「新型うつ」が社会問題化した1つの背景—休職中の過ごし方—
 - 亀山晶子: 「新型うつ」啓発教育で印象は変わるか—大学授業内での取り組み紹介—
 - 指定討論(各15分)
 - 塚原拓馬 (実践女子大学)
 - 杉山崇 (神奈川大学)



本シンポジウムについて

- 後半(14:45～16:00)は、即席の小グループに分かれ、「新型うつ」の問題にどう取り組むか、知恵を出し合う時間としたい。
 - 研究と実践の対話を進める。
 - テーマ: 「新型うつ」社員をどう捉えるか—新型うつ社員を戦力とするために—
 - 異なる立場の意見に出会うことで、「新型うつ」についての新たな気づきを得る場としたい。